ひと・夢・まち 町長コラム

「恩」は返せ。「恨み」は晴らせ。（平成30年11月号） （西郷隆盛・十の「訓え」vol.6）

似た言葉として、聖書の中に「目には目を、歯には歯を」という言葉があります。「やられたらやり返せ」というような意味で使っていますが、まったく違う意味を持っていることを知っていますか？

西郷さんはいろいろな障害を抱えながらも、信念を持って国づくりをしていきました。恨まれたこともたくさんありましたし、恨んだこともきっとあったのではないかと想像してしまいます。しかし、西郷さんの行動には、憎しみや怒りにとらわれて復讐するということは無かったです。戊辰戦争の有名な出来事の中で、庄内藩との戦い後の寛大な処置については今もって語り継がれています。西郷隆盛の「敬天愛人」の考え方を支持する人々は多く、庄内藩の重臣菅実秀によって「南洲翁遺訓」が世に出され、今も多くの人々に読まれています。

さて、「目には目を、歯には歯を」という言葉ですが、実は「目には目で、歯には歯で」が正しく、「目をつぶってしまった罪には自らの目で償う」「歯を折ってしまった罪には歯で償う」という意味です。

また、「恨みは晴らせ」ですが、「晴らす」という字が示すように、どこか正々堂々とした清々しさがあり、正しい恨みの晴らし方には、生命が躍動するような前向きな勢いがあるのではないのでしょうか。自分に打ち克つことで憎しみや怒りを乗り越え、成長の糧にしてより良い未来を築いていくことが大事なのだと教えてくれています。